

はじめに

西川長夫

本研究の報告(1)は、松下忠雄氏と松下静枝氏に作製していただいた松下清雄年譜と回想記を中心に、自伝的な記述が多く含まれている松下清雄の西川長夫宛の手紙を加え、さらに松下清雄(渡辺武夫)著『戦後農民運動史』(1959年、大月書店)にかんする安岡健一氏の論考を掲載するなど、松下清雄の生涯と、とりわけ戦後という時代的な背景に照明を当てることを目標にして編集された。

今回の報告(2)では、前回紙幅の都合で収録できなかった松下清雄氏の蔵書目録の前半部を掲載する。目録の作成は先端総合学術研究科の岩間優希さんと原佑介さんをお願いした。松下静枝夫人から御寄贈いただいた二千冊を越えるこれらの書物を私たちは「松下清雄文庫」と呼んでいる。さらに今回は松下清雄年譜の続篇として、松下忠夫氏に整理・作成していた遺稿(小説類)のリストの掲載許可をいただくとともに、そのリストの最後に記されている自伝的な小説「少年の冬」の一部を掲載させていただくことにした。また今回の報告書の最後に収められている伊藤淳史氏の常東農民運動の資料にかんする調査報告は、本年、4月1日の研究会でその一部が報告されたものであるが、これもかなり多くのページを必要とするため今回は前半のみとし、後半は次の報告書に収めさせていただくことにした。

遅々たる歩みであるが、こうして松下清雄と常東農民運動の全貌が少しずつ明らかになっていくことは喜びにたえない。執筆の方々に感謝の気持を表わすとともに、ひき続きの御協力をお願いしたいと思う。